CTRソフトウエアの物理定数を管理する

Material Data Manual ソフトウエア

Ver 1.03M (Ver1.00 はFreeリフトウエア)



概要

CTRソフトウエアでは、大量の物理定数を管理するソフトウエアとして

MaterialDataソフトウエアが存在していました。

しかし、データ入力はEditer経由で操作性に問題があり、本ソフトウエアを新規作成した。

機能

物理定数の新規作成 (Create)

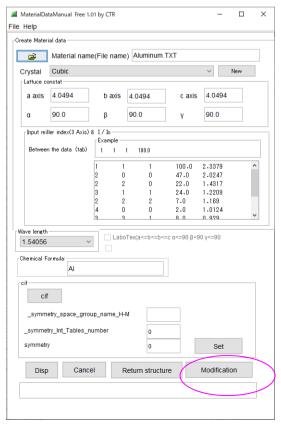
物理定数の編集 (Modification)

外部アプリケーションのサポート

Material Dataソフトウエアがインストールされていない場合、機能の補完 Marerial Dataソフトウエアとの違い

Material Data y フトウエアには大量のデータベースが付属しているが本ソフトウエアにはデータベース付属しないが、<math>Create機能があります。

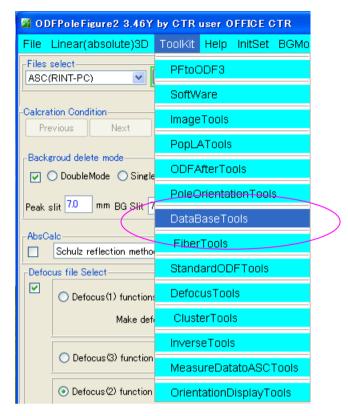


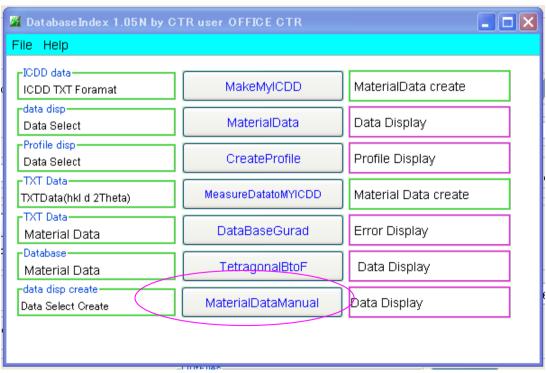


起動

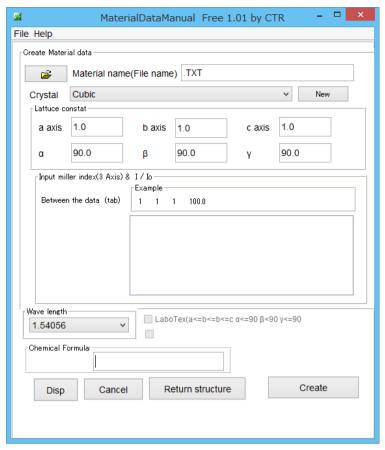
C:\CTR\bin\MaterialDataManual.jar ファイルのダブルクリック

ODFPoleFigure2->ToolKit->DataBaseTools->MaterialDataManual

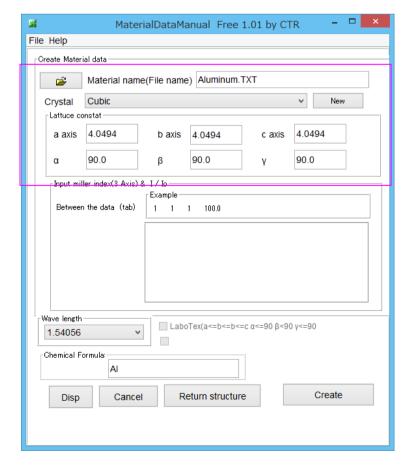




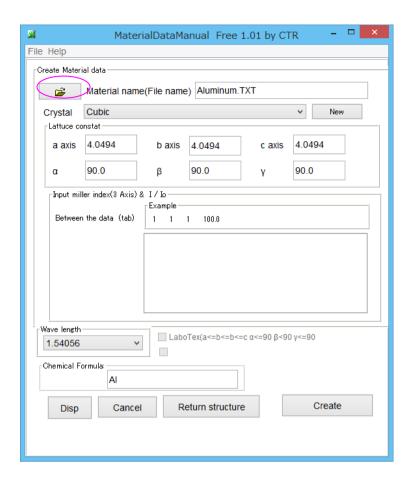
新規 C:\CTR\Swork\SYMYICDD にデータが登録されていない場合



例えば Aluminum を登録する場合、ファイル名を入力



ファイル名と結晶系 格子定数を入力 出来たら、 ミラー指数と相対強度を 入力し Createする。



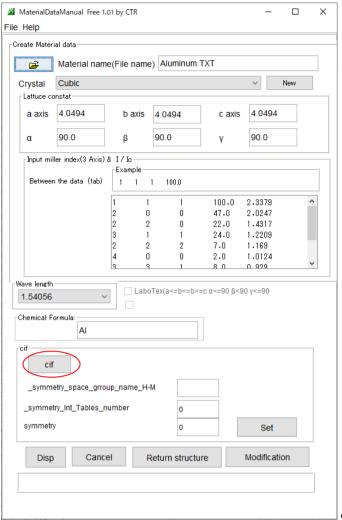
Aluminum.TXT 選択

Between the data (tab)	1 1 1 100.0				
	-	1	1 0 0	100 47 22	
		0			
		2			
ove length		LaboTex(a<=b<=b<	=c α<=90 β<90 γ<=90	
1.54056					

ミラー指数を入力し、

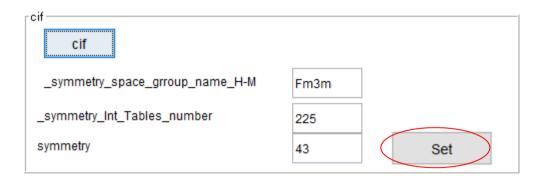
Modification によりデータが登録されます。

Ver1.02以降、cifデータの取り込み、データの変更を行う。



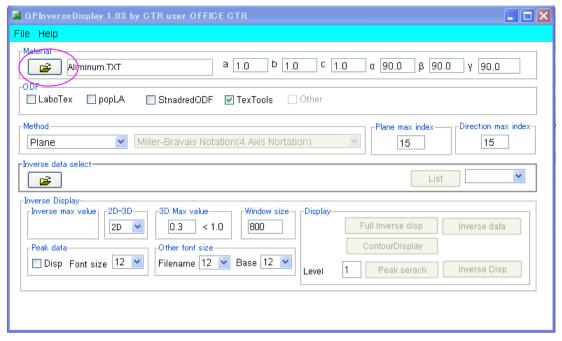
」c i f ファイルを選択

データが取り込まれます

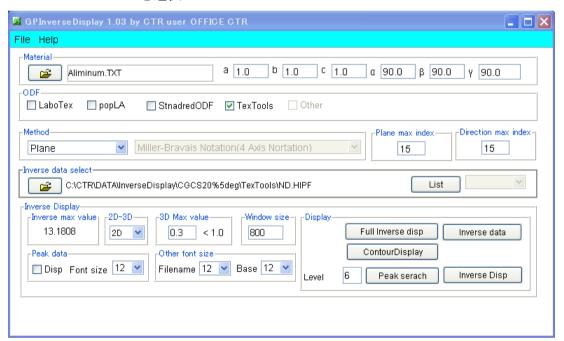


データが追加される。

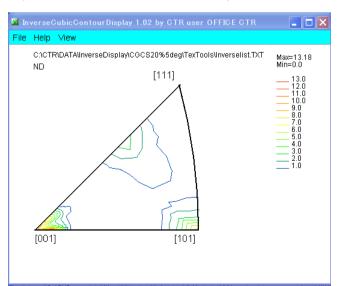
GPInverseDisplayソフトウエアで利用した場合(格子定数を読み込む)



Aluminium を選択



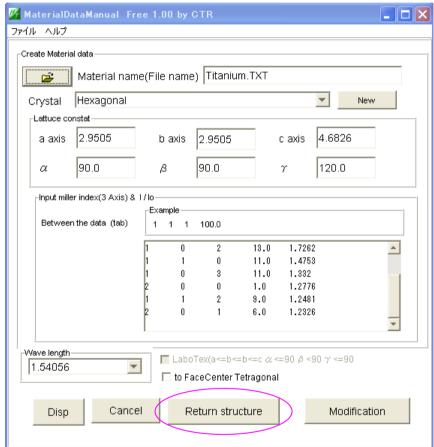
試料として TexTools の ND を選択、FulleInverseDisp、InverseData,ContourDisplay で



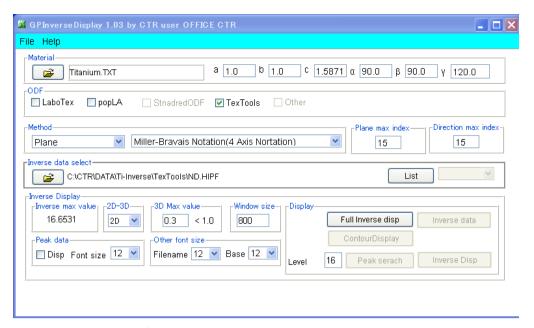
Cubicの逆極点図が表示

Titanumを選択

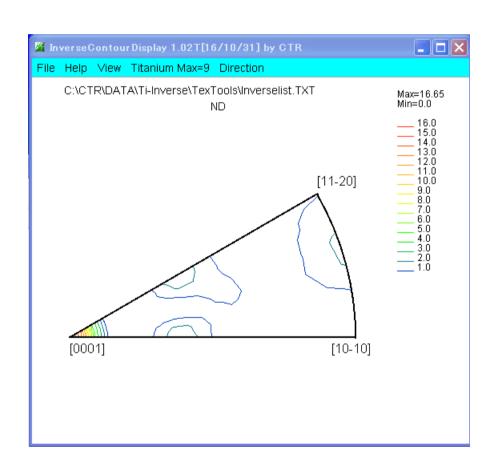




Return Structure



Ti-Inverse データを選択し、FullInversedisp,Inversedisp,ContourDisplay



MaterialDataと同様に、材料選択に対応致します。